



Basil Hall

Account of a voyage of discovery to the west coast of Corea, and the Great Loo-Choo Island : with an appendix, containing charts, and various hydrographical and scientific notices London, 1818

バジル・ホール著 『朝鮮西部沿岸及び大琉球島航海探検記』

著者のバジル・ホール(Basil Hall, 1788-1844)は英国艦船ライラ号の艦長。1816年、清朝中国へアマースト卿(William Pitt Amherst, 1773-1857)の使節団を送り届けた後、朝鮮、次いで琉球に寄港した。

一行は琉球で約40日間を過ごした。本書には、琉球の人々との友好的な交流の様子、琉球の自然、宗教、風俗、生活習慣などについての記録が収められている。クリフォード海軍大尉(Herbert J. Clifford, 1789?-1855)により収集された琉球の語彙は、英語や日本語との対照表にまとめられており興味深い。

1818年ロンドンでの発行以降、本書はオランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも翻訳され、琉球が広く西欧諸国に紹介されることになった。日本語の翻訳書としては『朝鮮・琉球航海記:1816年アマースト使節団とともに』(岩波書店, 1986年)がある。展示資料は、英語版初版。図版(彩色・単色)、地図、海図を収録。

なお、東京帝国大学で教鞭を執った日本語・日本文化の研究者バジル・ホール・チェンバレン(Basil Hall Chamberlain, 1850-1935)は著者ホールの孫であり、琉球についての著作も残している。